

会長 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 06-6833-9227
事務局 〒577-0054 東大阪市高井田元町1-14-2 岡本 至弘 06-6788-2796
編集室 〒586-0039 河内長野市楠ヶ丘11-18 中川 良三 0721-65-0348
HomePage担当 〒577-0054 大阪市住之江区南港中3-3-31-520 坪井 仁志 06-6613-2836

令和5年10月(2023年) No.694

第63回 OMC 映像フェスティバル

まず盛況で無事終了

第63回 OMC 映像フェスティバルは、去る10月2日(月曜日)に大阪市立中央会館で行われました。前々日の9月迄は猛暑続きでしたが、10月に入りますと、急に涼しさも感じられ、晴天にも恵まれて発表会にとっては恵まれた日となりました。例年ですとほとんどが日曜開催(去年は土曜開催)でしたが、今年は休日の会場が確保出来ず、止む無く月曜開催となり、入場者数が懸念されました。蓋を開けてみますと、やはり百名に満たなくて、少なくとも120名はと思っていたのですが、この点では少し残念な気がします。次は11月5日(日曜日)中央図書館での大阪アマチュア映像祭での実績を見たうえで開催曜日の再考を行います。



開催を遂行する為、会員諸氏がそれぞれの立場でご協力を頂きました事に厚くお礼申し上げます。

(OMC会長 合原一夫)

■ 祝電頂いた方々

- ・金子喜代子様：日本アマチュア映像作家連盟副会長、映像神奈川副会長
- ・竹田幸男様：寝屋川映像協会並びに会員一同様
- ・吉岡博行様：株式会社吉岡映像 代表取締役
有難う御座いました。

10月例会ご案内

- 第4土曜日28日13時開場 13時30分開始。担当世話役は開始30分前までにお越し下さい。秋の良い季節、二次会も含め楽しいひと時を。

第 63 回 OMC 映像フェスティバル

来場者は 90 名に留まる

コロナ後、初の入場制限なしの発表会であったが、例年日曜開催（去年は土曜）だったのが今回は月曜開催という事もあり入場者を懸念していた。過去は 200 名位来場者があったが、150 名位の入場者があれば大成功と見込んでいた。結果的には、90 名の入場者に留まった。しかし、座席の配置は少し間隔を広げて並べたりしていたので、感覚的にはまずまずの入りに見えた。観客の皆様も「よかったよ」と言って下さる方が多かったので、まずは盛会だったとしよう。11 月 5 日の大阪アマチュア映像祭は日曜開催なので、その結果を見て来年の開催日、場所を考えよう。観客数が 150 名以下なら、会場費の安い、上映設備の整っている布施駅前前のホールでもいいのではないかと、という気もしている。

気分的には日曜開催に戻したい（合原）

■ OMC 映像フェスティバル

会長あいさつ要旨

本日は OMC 映像フェスティバルにお越し頂き誠にありがとうございます。映写会も 63 回目を迎えました。63 年間も毎年休むことなく続けて来られたのも、毎回こうして多くの方々が観に来て下さっているからでございます。長く続いているアマチュアの映像発表会の世界では、全国で一番だと思います、しかし何事も続けて行く、という事の難しさ、課題も見えてきました。御多分に洩れず我がクラブも高齢化の波が来ております。若い人の入会が欠かせませんが最近ではスマホで撮って SNS 等で流して楽しんでいる若い人たちが増えております。

動画と称して撮ったままの映像をすぐに流して楽しんでおられます。

一方、私共は撮影はスマホであっても、きちんとパソコンで編集し、ナレーションや音楽も入れて作品を作って楽しんでおり、こうした発表会を通じて多くの方に見て頂くのが楽しいのです。これからも続けてまいります、今後ともよろしくお祈りいたします。

9 月 通常例会レポート

9 月例会は 23 日土曜日 13 時 30 分より開催、祭日だったせい、いつもよりやや少ない出席者と作品数だったが、内容的には良い作品も多く充実した例会となった。暑さが続くが来月は涼しい気候となろう。

■ **運営担当**：司会 上総、書記 高瀬、YouTube 関係 高瀬、映写 岡本、江村、メモリー記録 中川、受付・照明 宮崎、森下の各氏

■ **出席者**：岩井、植村、江村、岡本、上総、合原、高瀬、高田、中川、中村、宮崎、森下、山本の 13 氏

■ 上映作品（今月の書記は高瀬氏）

1. 「てんしば」から

「ジャンジャン横町」散策 BD

中川良三 5分 56 秒

（作者コメント）

2021 年の撮りためたデータを編集しました。天王寺公園の「てんしば」から新世界の「ジャンジャン横町」までの散策経過をまとめています。最後は串カツ屋で！

（書記コメント）

秋晴れの日、天王寺公園のエントランス芝地「てんしば」からあべのハルカスを見ながら散策開始。旧黒田藩蔵屋敷長屋門、慶沢園、大阪市立美術館とめぐり、新世界は通天閣のお膝元、ジャンジャン横丁へ。



やや高いカメラ位置でほとんど同じ広角の画面で移動撮影されており、安定しているが、アングルとかに少し変化が欲しい。

2. 岸和田 だんじり祭 BD

山本正夢 10分30秒

(作者コメント)

9月の暑さの中、秋のだんじり祭が行われました。地元住民ではないので表面的な映像しか撮れませんでした。

(書記コメント)

作者は「地元住民」ではないのでといわれているが、なかなかどうして、いろいろ撮影場所を変え、的確なカメラポジションでだんじりの躍動感をうまくとらえ、撮影されている。岸和田城を背景としたシーンも秀逸。作品の構成もだんじりの静と動を巧みに組み合わせ、さすがです。ただ、だんじりが疾走するシーン、屋根に乗る大工方は何度か繰り返されるだけに、どう描写し編集するかは難しいところ。



3. うだつの町 BD

江村一郎 8分30秒

(作者コメント)

江戸時代から明治時代にかけて、阿波藍の集散地として発展した脇町。通り沿いには「うだつ」をあげた重厚な屋敷が並び、往時の繁栄を今に伝えています。以前に藍商の館で行われた「草月流生け花とひな祭り」の写真を動画にしたものや、阿波踊りなどを挿入して全体として時系列が混在して分かりにくい面があるかも知れません。

(書記コメント)

「うだつ」は隣の家との境に設ける防火壁のこと。これを造るにはそれなりの費用がかかることから、高く上げることを繁栄の印とした。この「うだつが上がる」町並みが残るのは岐阜県美濃市と徳島県美馬市の2箇所のみだそうです。美濃市は訪れたことがあるが、美馬市はこの作品で初めて知りました。このうだつが上がる町の風情ある町並みや映画のロケ地、生け花展、雛祭り、阿波踊りなどさまざまな行事を何年にもわたって撮り続けられ、まとめられた労作。時系列が分かりにくいのではないかと心配されているが、あえて何年の出来事と記す必要があるのかということかと思えます。



4. 東大阪市民文化芸術祭 BD

岡本至弘 14分

(作者コメント)

今年の3月に行われた「東大阪市民文化芸術祭」踊りの会の出演記録です。カメラは会友の中川氏に協力いただきました。

(書記コメント)

作者の地元、東大阪市民文化芸術祭で江州音頭「石松代参道中記」を踊られた。時折、アップもあるが、観客席からの固定したカメラでは変化をつけるのは難しい。作者出演の記録として残される作品といえます。余談ですが、京都の盆踊りは江州音頭が定番です。



5. 開口(あぐち)神社と菅原神社 BD

上総秀隆 15分

(作者コメント)

2023年9月9日に行われた開口神社の御渡りと四台のふとん太鼓の



宮入り。そして同じ日の菅原神社での二台のふとん太鼓を取材しました。

(書記コメント)

最初に二つの神社の歴史などを詳しく説明されており、ずっと作品に入っていける。そして夜の6台のふとん太鼓の宮入は最初にやや小規模の菅原神社、後に開口神社の盛大なふとん太鼓と、時間的なものもあったのですが、順序としては良かったと思います。ふとん太鼓の宮入の映像は迫力があり、特にラストの紙吹雪が舞うシーンは圧巻。しかし宮入のシーンは時間が長く、どれも同じ感じなので、太鼓台に乗っている人、担いでいる人、それを見ている人のアップなどもほしい。

6. 八十路の夫婦

BD.

合原一夫

14分17秒

(作者コメント)

第63回 OMC 映像フェスティバル出品作。7月例会で「海苔と共に60年」として発表しましたが、これを改題して時間も20分から14分に短縮して再構成したものです。ねらいが「海苔の出来るまで」映画から人物を描くことに主眼をおいた構成にしてみました。

(書記コメント)

作者コメントにあるように「出来るまで映画」から「人物に主眼を置いた」構成に改められている。テーマを変えずに編集を見直すことは時々あるが、テーマを変更して組み立て直すのはなかなか難しい、特に時間を短縮し、人物を描くとなると、なおさらです。しかし海苔の養殖を60年にわたって続けてこられた老夫婦の姿、日常の生活ぶりなどを長期にわたって克明に撮影された映像を元に、重厚な作品に仕上げられている。前作のようにタイトルに「海苔」の文字を入れられなかったのは、観る人に「どのような夫婦」なのかという興味を抱かせるためでしょうか。



7. 地中海クルーズ旅行

BD

高田幸夫

13分20秒

(作者コメント)

地中海4ヶ国をまわるクルーズに行ってきた。

(書記コメント)

地中海4ヶ国6つの都市をめぐる地中海クルーズ。スペインのバルセロナを出航、フランスのマルセイユ、イタリアではジェノバ、ナポリ、シチリア島、そしてマルタ共和国のバレッタに寄港しての6800人乗りの大型客船での豪華な船旅。8日間の旅で数多くの映像を撮られているが、そのほとんどがワイドのワンカットで、テンポも良く、その場の状況や雰囲気表現されている。作者ご夫婦そろっての仲睦まじいショットも多く、ゴージャスな船旅を満喫されている様子が伝わってくる。



8. 23年目の青龍会

BD

高瀬辰雄

8分10秒

(作者コメント)

2000年、清水寺の青龍会が初めて行われた。会衆の衣装を米アカデミー衣装賞を受賞したワダエミさんが製作したことで話題を集め、マスコミも大勢集まりました。しかしあいにくの大雨で龍のお練はすぐに終わり、拍子抜けの第一回となりました。それから23年、久しぶりに青龍会を撮影に。ワダエミさんは2021年に亡くなったが、衣装は23年前と同じで、行事は確かに受け継がれていました。

